

・三位一体主日

泉のほとり

今月の詩編「第一四四編」

いかに幸いなことか、このような民は、
いかに幸いなことか
主に神といただく民は。



言葉を与える聖霊

今日はペンテコステ、地上に聖霊が降り教会が誕生したことを祝う日です。復活された主イエスは、四〇日目に天に昇られました。それから聖霊が降られるまでの間、弟子たちは集まって熱心に祈っていました。でも、主イエスの弟子が集まって祈っていても、それはまだ教会ではないのです。

創世記に神さまが人間を造られた話が載っています。神さまは土のちりで人の形を造り、その鼻から息を吹き入れて人を生きるものになりました。教会も同じです。主イエスの教えに従い、弟子たちが集まって教会の形を作りました。互いに愛し、足を洗い合う交わりです。でもそれはまだ生きた教会ではありません。神さまが息を吹き込まれて、初めて生きているキリストの体である教会になるのです。

その出来事を、聖書は「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ」と語ります。風が吹いて来たのではなく、吹いて来たような音がしたのである。そして炎のような舌が分かれ分かれに現れ、弟子たちの上にとどまりました。炎が現れたのではなく、炎のような舌が現れたのです。

舌は言葉を表します。聖霊は弟子たちに語る言葉を与えたのです。彼らはいろいろな他国の言葉で話し始めるのですが、彼らは全く知らない言葉を話したのではないでしょう。イスラエ

ルにはいろいろな国から人が訪れました。弟子たちも彼らの言葉を聞き知っていたのです。知ってはいても、話せませんでした。それを話す力を、聖霊が与えてくださったのです。

ある病院に小さな男の子が連れられて来ました。四歳を過ぎてても言葉が話せないのです。いろいろ調べましたが、どこも悪いところがありません。ところがある時、病院の待合室でテレビの子供番組を見ていたその子が、突然大きな声で歌い始めたのです。驚いた医師が両親の話を聞いて、初めてその理由が分かりました。両親は東北の出身で、言葉に訛りがあるのです。それを覚えさせないために自分たちからは話しかけず、一日中テレビの前に座らせておいた、というのです。話を聞いた医師の指導で、それから子供に話しかけるようにしたところ、すぐに言葉を話すようになりました。

わたしたちは皆、特別な勉強をしなくても自然に言葉を覚えます。でもそれは両親や身近な人たちが、いろいろと話しかけてくれたおかげです。それらを聞いて、言葉を覚えると同時に、話しかけてくるその人の心をも感じ取るようになります。そしてそれに答えたいと思うようになります。まだ言葉を話せない子供が、言葉にならない言葉で一所懸命に何かを話しているのを、聞くことがあります。それが言葉の基です。

聖霊はわたしたちに神さまの思いを伝えてくださいます。主イエスを遣わしてわたしたちを罪から救ってくださる神さまの思いです。その思いを受け止めた時に、弟子たちは言葉を語り始めたのです。

夕べの祈り

主なる神よ、甦り、今生きておられるイエス・キリストにわれらを結びつけてください。そしてわれらの生が、イエス・キリストにおいてみ心としておられることによつて、のみつくされてしまいますように。

地上でわれらを束縛しようとするすべてのものから解き放ち、常にかしらを高くあげる自由な者としてください。われらの救いが近づいているのですから。それゆえに全能の神よ、われらはこの困難な時代にあつてもあなたに信頼しているのです。

すべての民をかえりみてください。あなたはまさにこのすべての民を、み国に集めようとしておられるのです。

神よ、あなたはわれらの避け所、われらの助けです。終わりまでわれらはあなたに信頼します。

主よ、われらの神よ、あわれみ深き父、すべての慰めの神よ、あなたはいかなる難難の中にいる時でもわれらを慰めてくださいます。

われらは感謝します。あなたはわれらの苦難をも生命の道としてくださいました。われらはすべてのことにあつて大胆に、感謝していることがゆるされています。あなたはまさにわれらにとつては困難なものの中でも最善をなしよう方だからです。

み名がたたえられますように。死と罪を買いてひとつの道がわれらに与えられています。いつさいの禍いを貫いて祝福の道が与えられているのです。それゆえにみ名はほむべきかな！

平野克巳 「祈りのともしび」 より

子ブルームハルトの祈り

今日のお知らせ

○第一礼拝の中で、一〇年勤続幼稚園教師の表彰をします。

○礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒースービスがあります。また園舎二階のリズム室ではぶどうの会が開かれ、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。また一〇時三五分から園舎二階のひまわりの部屋で、紫園香音楽伝道師の指導による讚美と祈りの会が開かれます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで讚美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○二九日(火)午後七時から、来年のコイノニアキヤンプの準備委員会をカナンルームで開きます。

○吉村牧師は、三一日(木)午前・〇時半から、青山学院大学の礼拝で説教の奉仕をします。

○六月一日(金)附属幼稚園の遠足です。千葉市動物公園へ行きます。

○次週六月三日午後、ハイデルベルク信仰問答を学ぶ会をします。今回は四五七と四五八です。テキストをよく読んでご参加ください。

讃美歌21 57番

詞：別府信男, 1913-

GABRAYA NO KAZE
曲：藤田尚英, 1935-

ガリラヤの かぜ かおる おかで - ひと
び とに はな された めぐみの みこと
ばを、 わたしにも きかせて ください。

(♩=84)

アーメン。

聖書の会へどうぞ

5月30日(水)

●朝の聖言の会(10時)

「聖書に通じていたアポロ」

使徒18章24〜28節

黄允湜牧師

●聖書の夕べ(19時)

「闇が力を振るうとき」

ルカ22章47〜53節

吉村和雄牧師

ミニコンサート

6月14日(木) 12時30分

ハンドベル教室「雨に唄えば」他

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌讃21 127番 讃21 409番

説教 救われるべき名はキリストのみ

聖書使徒言行録4章5〜22節

説教者 吉村和雄牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌500番 336番

詩篇第1編

説教「キリストの弟子は」

聖書マタイ8章18〜22節

説教者 黄允湜副牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 22番

ガリラヤの風

説教 「霊が鳩のように」

聖書 マルコ1章9節～11節(新約P61)

司式 山名隆史兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 菊池美穂子 副牧師

前奏曲 「ブレー」 J.S.バッハ

○讃美歌 22番

- 1.めさめよわがたま あさひにともない
あしたのほめうた みまえにささげよ
- 2.むなしくすごしし ときをばつぐのい
ちからのかぎりに みわざをつとめよ
- 3.うえよりたまわる たからをもちいて
おわりのさばきに かしこみそなえよ
- 4.かくるるものをも 主はしりたまへば
ことばとおもいを ひたすらきよめよ
- 5.めさめよわがたま この日もひねもす
みくにをのぞみて いそしみはげめや

アーメン

○ピアノによる讃美

「主こそわが牧者」 讃美歌Ⅱ-197番より

○讃美歌 21 57番(3面に楽譜があります)

- 1.ガリラヤの風かおる丘で
ひとびとに話された めぐみのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 2.あらしの日波たけるうみで
弟子たちにさとされた すくいのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 3.ゴルゴダの十字架のうえで
つみびとをまねかれた いのちのみことばを
わたしにも聞かせてください。
- 4.夕ぐれのエマオへの道で
弟子たちに告げられた いのちのみことばを
わたしにも聞かせてください。 アーメン

聖餐曲 「ダンス」 E.グランドス

後奏曲 「カリヨン様式によるプレリュード」 T.ゴッア

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 499番 365番

詩篇 第144編(旧約P984)

説教 「信仰による従順へ」

聖書 ローマ1章1節～7節(新約P273)

司式 山名隆史兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 吉村和雄 牧師

前奏曲 「父、子、み霊なる神よ」 J.S.バッハ

○讃美歌 499番

○バリトン独唱

「飼い主わが主よ」 讃美歌354番より

○聖歌隊による讃美

「主の家に行こう」 D&J.バー

主の家に行こうと言われた時

私の心は喜びに満ちた 心は喜びに満ち

魂は歌と感謝にあふれ ほめうたささげた

主の家に行こうと言われた時

導きと盾なる主 力助けなる

共にいます主に祈ろう 平和と救いの主

栄光と力なる主に 讃美をささげよう

喜びと感謝ささげよう 共にいます主に

主の家に行こうと言われた時

私の心は喜びに満ちた

主の家に行こうと言われた時 喜びが満ちた

心は喜びに満ち 魂は歌と感謝にあふれ

ほめうたささげた

主の家に行こうと言われた時

私の心は喜びに満ちた

○讃美歌 365番

聖餐曲 「祈り」 J.フグレ

後奏曲 「カリヨン様式によるプレリュード」 T.ゴッア

×礼拝には、出立、讃美歌、礼拝のおしりを毎週お持ちください。